

調査・研究報告書の要約

書名	インド有力サプライヤー企業便覧 ー東インド編ー				
発行機関名	社団法人 日本機械工業連合会				
発行年月日	2011年3月	頁数	87頁	判型	A4

[目次]

インドの素材生産量

インドの産業分布図

日本企業地域分布図

I 鍛造

II 機械加工

III 板金・プレス加工

IV 鋳造

[要約]

・インドにおいては報告書に記載のように大きく分けて4つの工業地域があり、今回は、日系企業では三菱化学(テレフタル酸)、双日、黒崎ハリマ(耐火物)、タヨロールズ(ロール)、現地企業では TATA MOTORS(自動車)、H V Axles Ltd (自動車部品)、Indian Railways(鉄道)、TATA Steel (鉄鋼) などがある東部地域の2つの州(ウエストベンガル州、ジャルカンド州)を中心に部品産業の実態調査を実施した。

・その調査内容は19年度の北部地域、20年度の南部地域、21年度の東部地域での調査を基本的に踏襲し、鍛造、機械加工、板金・プレス、鋳造の4つの業種をカバーし合計60社の基本調査を行った。当初はプラスチック成形、産業機械を加えた6業種を調査する予定であったが、前年度までの3地域と比較し東部地域は工業化の進展が遅れているため、これら2業種における適切な企業を見つけることができなかつたため対象を4業種に絞り、1業種あたり15社の合計60社とした。その内15社については詳細調査を実施した。調査は全て現地訪問し、夫々の会社の経営者若しくは幹部社員からの直接ヒアリングによる方式であるが、一部売上や資本金、顧客などの情報については非公開の企業もあった。

- ・報告書の中に記載されているが、かなりの企業が ISO9000,9001,TS16949 などの認証を取得しており、品質管理などへの関心の高さが伺われた。また、前述のように調査対象企業の中には自動車関連の部品を製造する企業が数多くあったが、将来的にはその他の業種への参入を計画している企業も多く、併せて輸出による業容の拡大を検討している企業も少なからず見られ、日本企業としても取引機会はかなり多いのではないかと判断される。
- ・詳細調査の中で分かった事として、ほとんどの工場内はきれいに整理、整頓されており、工場内に 5S やカイゼンといった標語を掲げている会社を多く見かけた。しかし一方において、前年度までの 3 地域に比べ雑然とした雰囲気の子工場の割合が多いという印象も覚えた。

工場の現業部門で働く所謂ワーカーと呼ばれる人達は職業訓練学校（ITI=Indian Technology Institute）の卒業生や 10~12 年級と呼ばれる学歴を持つ人達が多く、給与面では企業によってばらつきはあるものの、低いところでは月間 3,500~4,000 ルピー（日本円 7,000~8,000 円）くらいでアセアン諸国などと比較するとまだ低賃金である。但し、技術者を含めたスタッフの給与は最近かなり上昇率が高く、これから中国同様コストアップは大きな課題となるだろう。

なお、具体的な調査は、株式会社インド・ビジネス・センターに委託して実施した。



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。

<http://ringring-keirin.jp>